黒澤幸子さんと植物生理研（三村徹郎）

Tetsuro MIMURA: Kurosawa-san in Laboratory of Plant Physiology

神戸大学大学院理学研究科
Graduate School of Science, Kobe University, 1-1, Rokkōdai, Nada-Ku, Kobe, 657-8501 JAPAN

黒澤幸子さんは，東京大学を定年退官される前の 3 年間（1985 年 4 月～ 1988 年 3 月）を，田澤仁教授が主宰する植物生理学研究室で過ごされました．当時の生理研は，田澤教授，新免輝男助教授（現兵庫県立大学副学長），網野真一助手（現東海大学教授）と三村が同じく助手として所属していました．黒澤さんは，初めは教務職員として着任されましたが，1987 年 7 月に恐らく植物学教室としては初めて，それまでの業績などが認められて，教務職員から助手に昇任されています．

生理研にお出でになる前は，植物学教室の機構改革などの関係で，それまでの分類学研究室から事務室に配置換えになり，研究の現場から離れ，事務専任とならざるを得なかったため大変苦労されたのではないかと思います．当時の詳しい経緯は良く知りませんが，生理研に来られて再び研究の現場に戻られました．もちろん，それまでの分類研究とは異なる形ではありますが，当時，白衣で長い黒髪の黒澤さんが，同じく白衣の田澤先生と一緒に，二号館 1 階の暗い廊下の中を行き来されて，シャジクモやオオカナダモの研究をされていた姿を思い出します．

黒澤さんが生理研で田澤先生と行われていたのは，オオカナダモ原形質流動の誘導機構や，シャジクモ潅流細胞の長生き実験でした．当時のことを田澤先生に伺ったところ「研究室では，秘書的なこともしておられましたが，私らと一緒に実験をされました．その成果は Tazawa M., Kurosawa S., Amino S., Tominaga Y., Sakano K. and Matsumoto, T. (1991) Induction of cytoplasmic streaming and movement of chloroplast induced by L-histidine and its derivatives in leaves of *Egeria densa*. Plant Cell Physiol. **32**(2):253–260 として発表されています．黒澤さんは主に顕微鏡観察とヴィデオカメラによる記録から葉緑体の移動の観察を担当してくれました. 生理的な仕事をされたのは，初めてではないでしょうか．生理研に来られる前は事務室におられたので，「分野が違っても研究室配属になられて，よかったと思います.」とのことでした.

また，田澤先生が 1990 年 3 月の定年に際し理学部広報に書かれた文章の中に，黒澤さんのことが出てきます.

「1977 年 11 月に阪大から赴任したのはついこの前のことのようでもあるし，また遠い遠い昔のことのようでもある．— 中略 — 植物生理学研究室に行き，ちゃんとした教授室があるかと思ったら，丁度二号館は改築の最中で，私の部屋は現在の生物学科共通図書室を入って直ぐ右側に相当するところにあった一単位の何も入っていない空の部屋であった．当時助手であった坂野勝啓さんをはじめ，大学院生の諸君が，急いで廊下から机，椅子などを運び込んでくれて，一応居室の体をなした．その頃隣の分類の部屋には原寛名誉教授もよく来られ，先生のお元気な声と黒澤幸子さんの笑い声がよく聞こえてきた.」

着任当時，まさか分類学研究室の黒澤さんが，定年前に同じ研究室に来られるとは思ってもいなかったでしょうが，一緒に過ごした 3 年間での，黒澤さんの皆さん良くご存知の笑い声は，昔を思い出させるものだったろうと思います.

当時，新免，三村，網野の 3 人のスタッフが順に長期の海外留学に出ていたことから，田澤先生と一緒に研究室での時間を長く過ごされていたのは，私達弟子筋のスタッフではなく，黒澤さんでした.

私も，1986 年から 1988 年まで 2 年間研究室を離れていたため，黒澤さんと生理研で過ごした時間は，1 年と少しでしかありません．しかし，黒澤さんというと今でも強く思い出すことは，まず何よりも，インドのチキンカレーを作っていただいたことです（研究の話でなくて申し訳ありませんが）．当時，生理研では，良く皆で料理をしていたのですが，黒澤さんが，大きなアルマイトナベに，池袋で（？）手に入れたというカレーの素から作られた材料をお家から持ってこられ，長時間じっくり煮込んで下さったのを，本当に美味しく頂いたことは，その味とともに忘れることが出

1986年秋の生理研遠足（高尾で藤野芋掘り），スタッフと当時の院生，学生．左から二人目，黒澤さん，六人目，田澤先生．

2001年7月8日，京都センチュリーホテルで開かれた田澤先生の叙勲お祝いパーティにて．黒澤さんと田澤先生ご夫妻．

来ません．今でも，何とかもう一度あの味を再現したいと思います．この原稿をご依頼いただいた大橋先生から，黒澤さんの生理研時代のことを尋ねられ，私がカレーのことばかりご連絡したら，「黒澤さんのカレー料理は原寛先生時代にインド植物調査に長期間参加されたり，シッキムの総理大臣のご長女Topdenさんのお世話をされたりで，勉強され，1960年代初めから始まったものです．日本ではまだ本格的なインド料理のなかった時代で，最初はその味に驚いてご一緒にいただいた原先生に笑われてしまいました．チキンカレーの味をまだ覚えています．懐かしいですね．」というメールを頂きました．

また，研究室セミナーで，アオキの学名や分類（ツンベルクとの関係）と，それに関係する細胞（確か斑入りの話もあったように思います）の話を伺ったことも，専門に近い話は皆忘れてしまったのに，まだ今でも私の記憶の中に残っています．黒澤さんの前任者であった松田さんのセミナーもそうでしたが，結局，自分の専門に近いものより，印象深いセミナーがいつまでも残るということを，今学生に教える立場としても心しなけれ

ばならないと思います.

こうして生理研での時間を過ごされた後，黒澤さんは 1988 年 3 月に東京大学を離れられました. 私もずっと年賀状を交換させていただくなどして，近況をお知らせしていましたが，2001 年には田澤先生の叙勲をお祝いするパーティにわざわざ京都までお出でくださり，皆と旧交を温めていただいたことが思い出されます.

田澤先生からお送りいただいた生理研での遠足の写真（写真上）と，パーティで黒澤さんにご挨拶を頂いた時の写真（写真下）を見ながら，在りし日の黒澤さんを思い出させていただきました. 学生時代から，実習を始め色々お世話になった黒澤さんのご冥福を心よりお祈りいたします.

本稿を書くにあたって，田澤　仁先生，植物学教室事務室に所属されていた鈴木美和子さん，現在，東京大学福田裕穂教授室にいらっしゃる岡田みち子さんに情報をいただきました. この場を借りてお礼を申し上げます.